

平成 28 年度 事務事業評価シート 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
一般	10	01	03	104090	復興教育学校支援事業	
総合計画	分野	人づくり				
	政策	3-2 学校教育の充実				
	施策	2 豊かな人間性の育成				
目的	東日本大震災からの復興・発展を支える児童生徒を育成するための復興教育実施校に対して支援を行い、今後の「いわての復興教育」の充実を図る。					
対象	児童生徒					
意図	希望と勇気を持って前に進む「生きる力」を育む					
事業概要 …上記目的を実現するための事業手法を記載すること						
○心のサポート授業の実施 ○市内で働く方々によるキャリア教育の実施 ○募金活動等による被災地支援ボランティア活動の実施 ○地域連携による防災対策会議の開催						
市民参画の有無 [対象外]						
市民協働の形態		共催		実行委員会・協議会		
		後援・協賛		補助・助成		
事業協力・協定		委託				
活動指標（上記「事業概要」に対応）		単位	区分	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(計画)
①	1校当たりの心のサポート授業の実施回数	回	計画	3	3	
			実績	1	1	
②	1校当たりのキャリア教育授業の実施回数	回	計画	3	3	
			実績	12	12	
③			計画			
			実績			
成果指標（上記「意図」に対応）		単位	区分	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(計画)
①	友達にやさしくしていると答えた児童の割合	%	目標	96.0	96.0	
			実績	97.0	96.5	
②	友達に対して思いやりのある言動をしていると答えた児童の割合	%	目標	93.0	93.0	
			実績	94.3	94.9	
③			目標			
			実績			
成果指標の達成度	目標値より高い		<input type="radio"/>	概ね目標値どおり		目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析 (新規事業及び成果指標を変更した場合は、その成果指標を設定した考え方、目標値の根拠を記載)		
○各学校では、心のサポート授業や「いわての復興教育」副読本を活用した授業を実施したり、東日本大震災津波の被災者を講師とした講演会を開いたりして、児童生徒の豊かな情操を涵養した結果、成果指標を達成することができた。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	花巻市の将来を支える「人づくり」を支援していくことは妥当である。
	<input type="radio"/> 妥当である	
	見直し余地がある <input type="radio"/> 妥当でない	
有効性	成果の向上余地	取組成果を蓄積し共有することにより、更なる相乗効果が期待できる。
	<input type="radio"/> 向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	今まで経験したことがない大震災に係る教育であることから、専門家の招聘は現時点で欠かせない。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある <input type="radio"/> どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	実施校の取組成果が他校に普及することから、受益機会は均等である。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある <input type="radio"/> 適正である	
総合評価 …上記評価結果の総括		
震災と向き合うことで、児童生徒一人ひとりが、自分を見つめ直し、命の大切さを実感するとともに、自分自身が地域や社会との関わりの中で生きていることを学ぶことができることから、事業の継続は必要である。		

平成 28 年度 事業説明資料 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業J-ト	事業名
一般	10	01	03	104090	復興教育学校支援事業

単位：千円

		27年度 決算額(A)	28年度 決算額(B)	29年度 現計予算額	決算額前年比 (B-A)
事業費		594	641		47
財源内訳	国・県				
	地方債				
	その他				
	一般財源	594	641		47

事業期間	<input type="radio"/> 単年度繰返	期間限定	[平成 年度 ~ 平成 年度]
------	-----------------------------	------	-----------------

部経営方針における目標
夢と希望をもち、たくましく生きぬく子ども達を育む学校教育の充実

事業開始の背景・経緯
復興教育の重要性が高まり、継続して取り組むことが求められていたため。

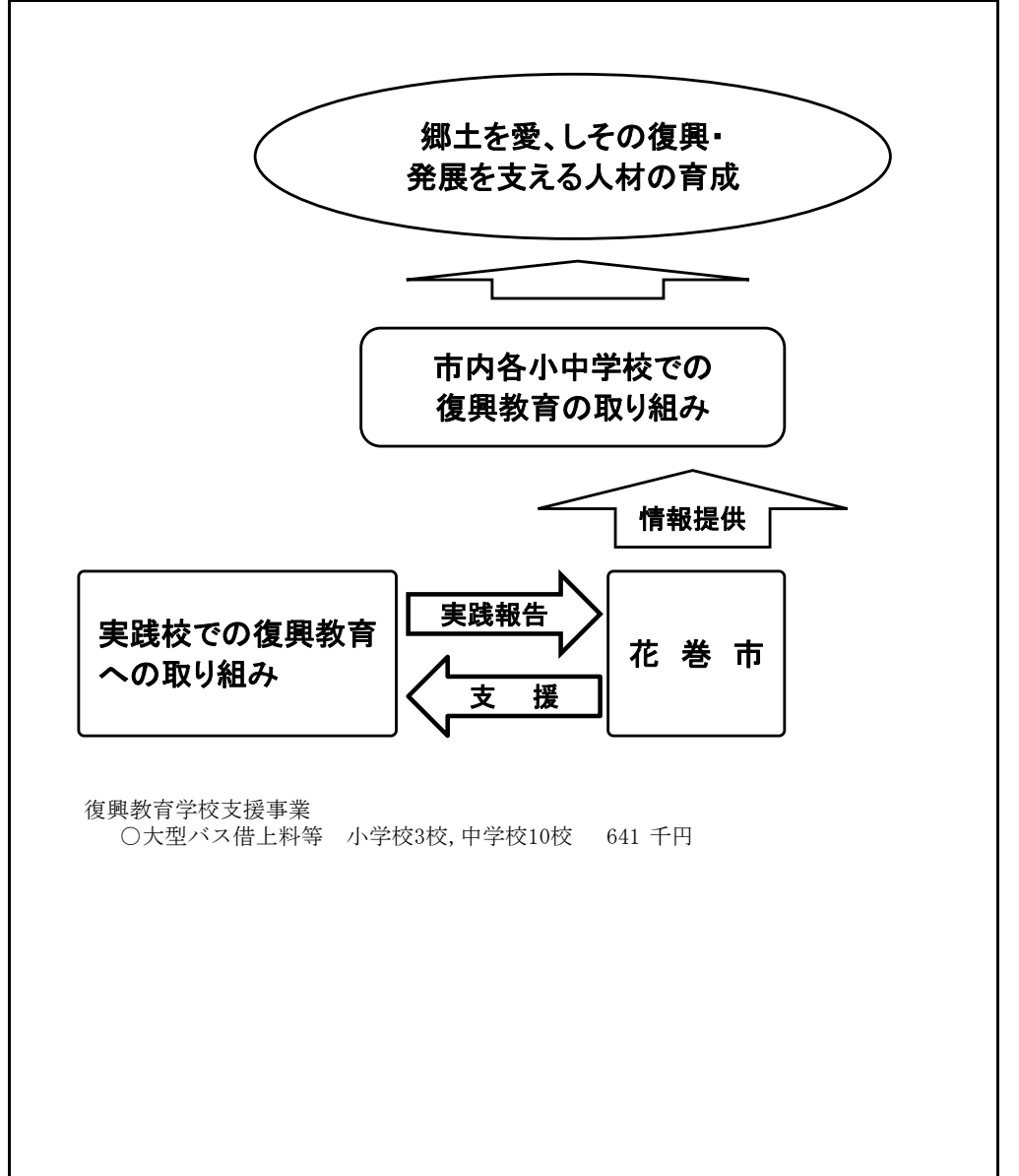
事業概要
○心のサポート授業の実施
○市内で働く方々によるキャリア教育の実施
○募金活動等による被災地支援ボランティア活動の実施
○地域連携による防災対策会議の開催

事業を展開する上での課題、留意事項 / 意見・要望等

実施校との連絡調整を取りながら事業を実施する。

担当部署 部名 教育部 課名 小中学校課 担当係長 佐々木健一 内線 9-30-338 (単位：千円)

《事業手法の詳細》…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること。
【適宜、セルは結合して構わないが、結合した1つのセル内は1文章程度にとどめること。】



復興教育学校支援事業
○大型バス借上料等 小学校3校, 中学校10校 641 千円